

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果概要について

今年度、4月17日(木)に実施しました全国学力・学習状況調査(対象6年生)の結果につきまして、文部科学省より報告が届きましたので、お知らせいたします。この調査は、子どもたちの学力や学習状況の実態を把握し、指導方法の工夫改善に生かすことを目的に実施されました。調査対象は6年生ですが、学校全体の状況と捉え、全学年を通じて一層の改善を図ってまいります。

()内は、本校での割合です。

矢印は、全国平均に比べ
 ↑ やや上回っている ↓ 上回っている
 ⇕ やや下回っている ⇕ ほぼ同程度
 ⇓ 下回っている

児童に対する質問紙調査の結果まとめ

【質問項目別全国平均との比較】

自己有用感・規範意識・社会貢献等	
自分には、よいところがある。(85.7%)	⇕
将来の夢や目標をもっている。(77.1%)	⇓
困っている人は、進んで助ける。(94.3%)	→
いじめはいけないうことだ。(96.2%)	⇕
人の役に立つ人間になりたい。(98.1%)	⇕
生活の中で、幸せな気持ちになることがある。(96.2%)	↑

生活習慣・学習習慣等	
朝食を毎日食べている。(98.1%)	↑
毎日、同じ時刻に寝ている。(79.0%)	⇕
毎日、同じ時刻に起きる。(89.5%)	⇕
学校以外で1時間以上勉強している(35.3%)	⇓
読書が好き(78.1%)	↑

人との交流・地域や社会に関わる活動の状況等	
分からないことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる。(82.9%)	⇕
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。(83.8%)	↑
友達との話し合い活動で、考えを深めたり、広げたりできている。(85.8%)	⇕
友達の考えを大切に、協力して課題の解決に取り組んでいる。(92.3%)	⇕
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。(85.7%)	↑

【結果から・改善の方向】

❖ 全国平均に比べ、自分のよさを捉え、将来に夢や目標をもっている児童は少なめです。キャリアパスポート等を活用しながら、自己肯定感・自己有用感を高めていけるように取組を進めていきます。

❖ 人の役に立ちたいと考え、生活の中で幸せを実感している児童は多いです。引き続き、特別の教科道徳の授業等を通して、思いやりの心を保護者や地域の皆様の協力をいただきながら育てていきます。

❖ 「寝る時刻」と「起きる時刻」が一定になっていない児童が一部見受けられます。「早寝 早起き 朝ごはん」などの生活習慣を整えるための取組をお願いします。

❖ 読書が好きな児童はかなり多いです。ただ家庭での学習時間は少ないです。「まほうのかいわ」など、御家庭と協力しながら、「学習習慣づくり」を進めていきます。

❖ 友達と関わる中で自分の考えを深めたり、広げたりできる児童は多いです。協働して学習に取り組む意識が高まっているのは、授業の中で「交流活動」を位置付けてきた本校の成果だと思われます。今後も身に付けた学び方を生かし、より自分の力を高めていけるような取組を進めていきます。

❖ 自分の住んでいる地域に関心を持ち、そのよさに目を向けようとする児童は多いです。保護者や地域の皆様の御理解と御協力のおかげです。今後も身近な地域をよりよいものにしていこうとする気持ちを育めるような取組を充実させていきます。

※本校の令和7年度全国学力・学習状況調査の結果概要については、特に保護者の皆様と共有したい部分を選んでお伝えしています。御家庭での学習にも是非お役立てください。

【小学校国語】（全国平均との比較）

本校の概要

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率
→下回っている。
 - 「情報の扱い方に関する事項」の平均正答率
→上回っている。
 - 「我が国の言語文化に関する事項」
→ほぼ同程度。
 - 「話すこと・聞くこと」の平均正答率
→上回っている。
 - 「書くこと」の平均正答率
→ほぼ同程度。
 - 「読むこと」の平均正答率
→ほぼ同程度。
- ※平均正答率は、全国平均よりやや上回っている。

今回の調査における課題

- 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章構成を考える力が不十分である。
→全国平均より、下回っている。
- ▲目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける力が不十分である。
→全国平均より、やや下回っている。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う力が不十分である。
→全国平均より、下回っている。

改善の方向

- 「文章を構成する要素に気付き、内容を理解する力」や「目的に応じて、必要な情報を見付ける力」を身に付けるために、基本的な語彙力を基に、接続詞や指示語に注目しながら内容を丁寧に読み進める指導を図る。
- 基本的な語彙力の習得のため、新出漢字や語彙の学習の充実を図る。
- 身に付けた知識を、関連付けたり、応用したりしながら課題解決に向かう学習の充実を図る。

【小学校算数】（全国平均との比較）

本校の概要

- A数と計算 の平均正答率
→ほぼ同程度。
 - B図形 の平均正答率
→上回っている。
 - C測定 の平均正答率
→上回っている。
 - C変化と関係 の平均正答率
→やや上回っている。
 - Dデータの活用 の平均正答率
→上回っている。
- ※平均正答率は、全国平均よりやや上回っている。

今回の調査における課題

- ▲平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図する力が不十分である。
→全国平均より、やや下回っている。
- ▲数直線上で示された数を分数で書く力が不十分である。
→全国平均より、やや下回っている。
- 異分母の分数の加法の計算をする力が不十分である。
→全国平均より、下回っている。

改善の方向

- 「基準となる数を見だし、数量の関係を捉えることができる力」を身に付けるために、授業の中で具体的な物や図、表などを使って数量のまとまりや関係を視覚化する場面を積極的に取り入れる。また、日常の具体的な場面と結びつけたり、既習の学習内容や経験をもとに見通しをもたせたりする機会の充実を図る。
- 算数的な用語や表現について、しっかりと習得させるとともに、習得した知識を活用する活動をくり返し行うことで、確かな理解へとつなげていく。